

## 社会の課題解決のために行動科学を活用した取組事例

職場環境・働き方改革分野（休暇取得促進）：

警察庁／中部管区警察局岐阜県情報通信部の取組





職員は通常の勤務時間に加え  
夜間や休日も交代で宿日直

宿直明けや連休期でも  
休暇を遠慮する傾向

上司が休暇取得を勧めても  
休暇消化は伸び悩み

中部管区警察局  
岐阜県情報通信部長

通信庶務  
課長

機動通信  
課長

通信施設  
課長

情報技術  
解析課長

職員を休ませるナッジはないか

休暇申請

心理的ハードル

休暇承認

宿日直対象者  
約40人

勤務時間法第17条第3項  
に基づき休暇制度完備だが…

ナッジ	Before	After
フレーミング 【改革】	休暇取得を管理して事業継続	出勤日を管理してWLB確保 「出勤日管理施策」 【業務改革】
	休暇、連休の概念は 法令やカレンダーのとおり	休暇は所与のもの 特定日は休暇取得が前提 【意識改革】
現状維持 バイアス	休暇の申請には 心理的抵抗	デフォルト(休暇)からのオプト アウト(勤務)に一手間必要

参考:リチャード・セイラー+キャス・サンスティーン(2009)「実践行動経済学～健康、富、幸福への聡明な選択」、日経BP社

ナッジ	Before	After
複雑な選択の体系化	申請前に休暇開始時刻と休暇時間数を決める必要	事前に、休暇取得有無のみ意思表示
		意思表示の手間はワンクリック以下
同調圧力	休暇には、同僚との調整と上司への申請が必要	書式内に記入欄設定、休暇は上司・同僚に見える化

参考:リチャード・セイラー+キャス・サンスティーン(2009)「実践行動経済学～健康、富、幸福への聡明な選択」、日経BP社

部長が発案

法令上許容される  
ことを確認

部内反対がない  
ことを確認

既存様式を一部修正、  
導入

# 実施内容(宿直明け)

宿直者は翌日の休暇取得をデフォルト化

オプアウト(勤務)する者のみ  
報告様式に新設された該当欄にチェック

氏名	宿直明け休暇の取得
	<input type="checkbox"/> しない
	<input type="checkbox"/> しない

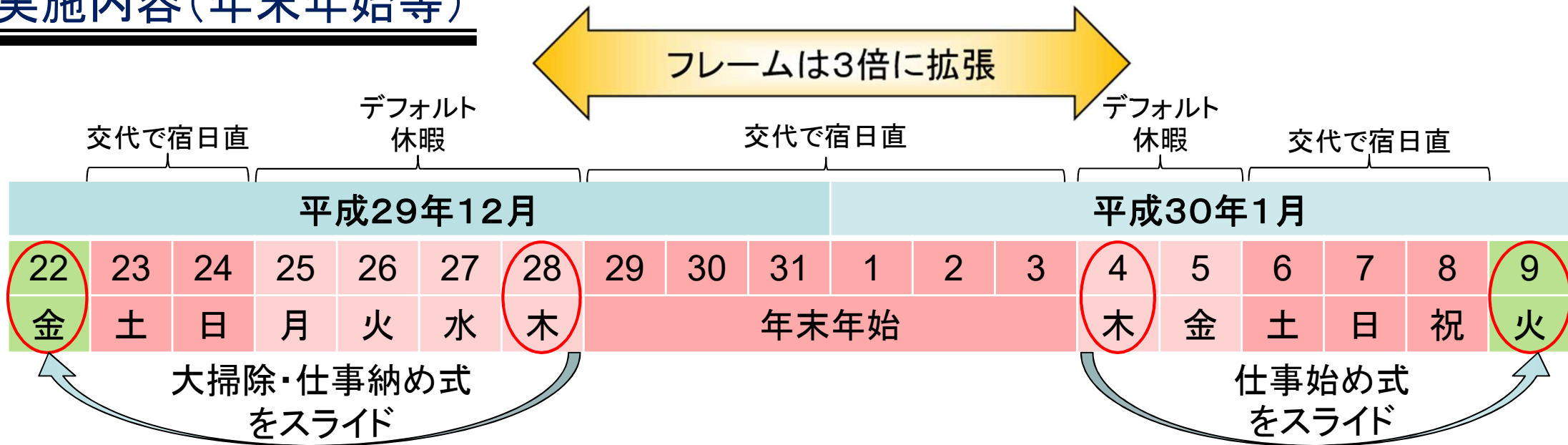
上司は、オプアウト申告、昨晚の対応状況、健康状態等から休暇取得を奨励

睡眠不足だね。  
今日は帰って  
休みなさい。

深夜に事案  
対応しました。



# 実施内容(年末年始等)



連休期の既存予定表に  
デフォルト休暇機能を付加

ゴールデンウィーク  
も概ね同様に実施

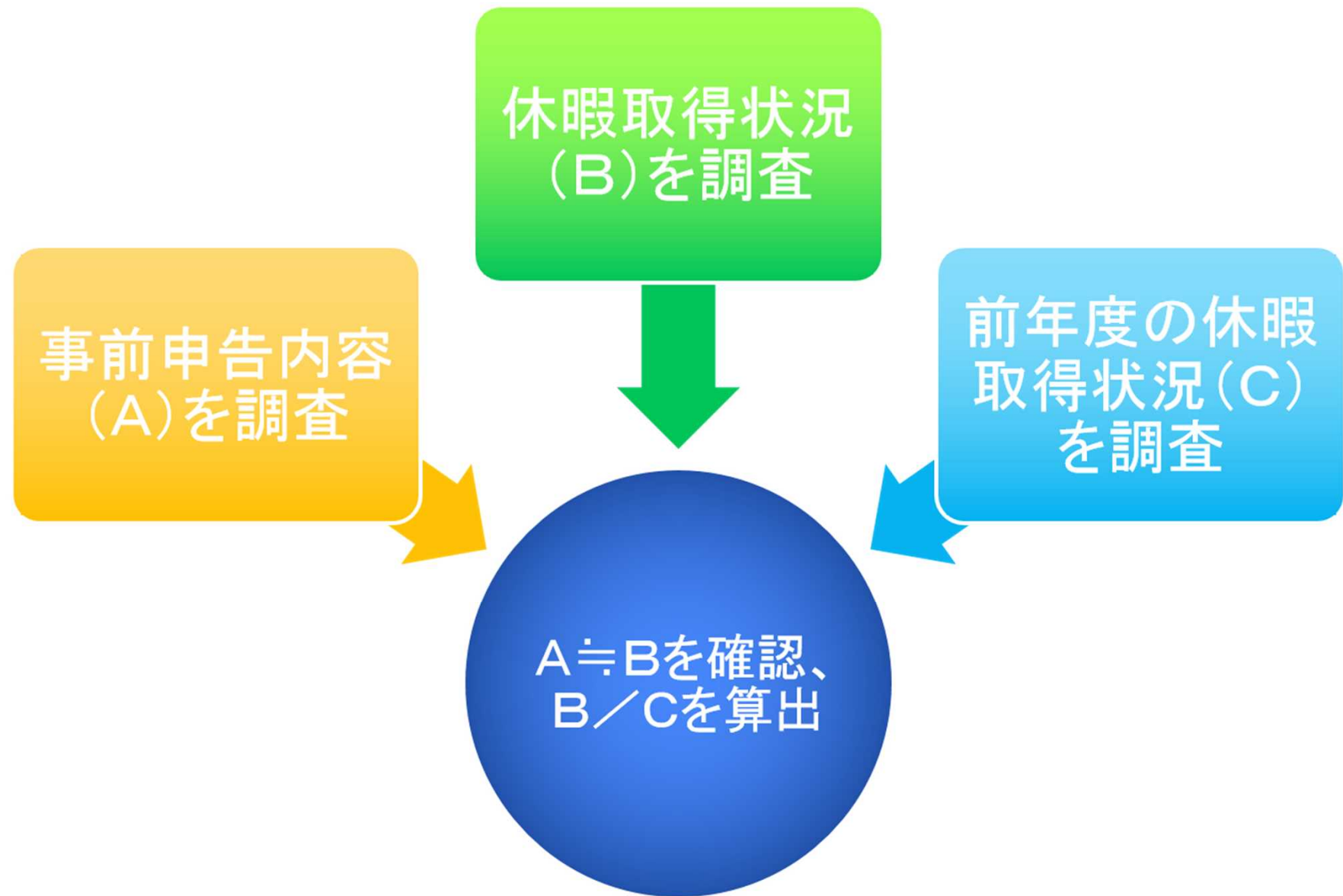
12/25 (月)	12/26 (火)	12/27 (水)	(木)	1/5 (金)
午前	午後	午前	午後	午前
休暇	休暇	休暇	休暇	休暇
呼出可	呼出可	呼出可	呼出可	呼出可
休暇	休暇	休暇	休暇	休暇
呼出可	呼出可	呼出可	呼出可	呼出可
休暇	休暇	休暇	休暇	休暇
呼出可	呼出可	呼出可	呼出可	呼出可

- 休暇** 休暇取得、待機の場合(デフォルト)
- 出勤** 通常業務・当直等の場合
- 呼出可** 参集できる場合(デフォルト)
- 呼出不可** 旅行等、参集が難しい場合



職員は出勤日を  
オプトアウト





# 結果(データ)

休暇取得者は…

宿直明け

3倍弱に増  
延べ37人⇒106人

年末年始期

12/28又は1/4  
では6割増  
19/49人⇒30/48人

GW期

連休拡大となる4平日  
いずれかでは6割増  
21/48人⇒33/47人

年間休暇取得は…

2割弱増  
平均12.3日⇒14.2日

ワークライフ  
バランスが向上

※いずれも全職員対象、  
前年度同条件データとの比較

# 結果(職員の声)

結局事前に上司の確認を得ますが、  
休みのハードルは下がりました

休みは強制的ではないので  
続けてほしい

休みやすくなりました

ピークを避けて帰省できました

いい施策だと思います。  
ただ、業務上休暇取得できない…

長距離通勤なので、  
宿直明けよりも  
普通に1日休みたい

私は休みたいときに休んでました  
そこまでやらなくてもいい



警察部内  
全国申報

内閣人事  
局長表彰

全国会議  
で横展開

